

第4章

構想実現に向けて

本構想は、今後数十年の敦賀の長期的かつ安定的な発展に向けた構想となります。そのため、次のとおり、将来の不確実性とこの対応を踏まえて、試行錯誤を繰り返しながら、ステップ・バイ・ステップで構想実現に取り組んでいきます。

1. 不確実性と柔軟性

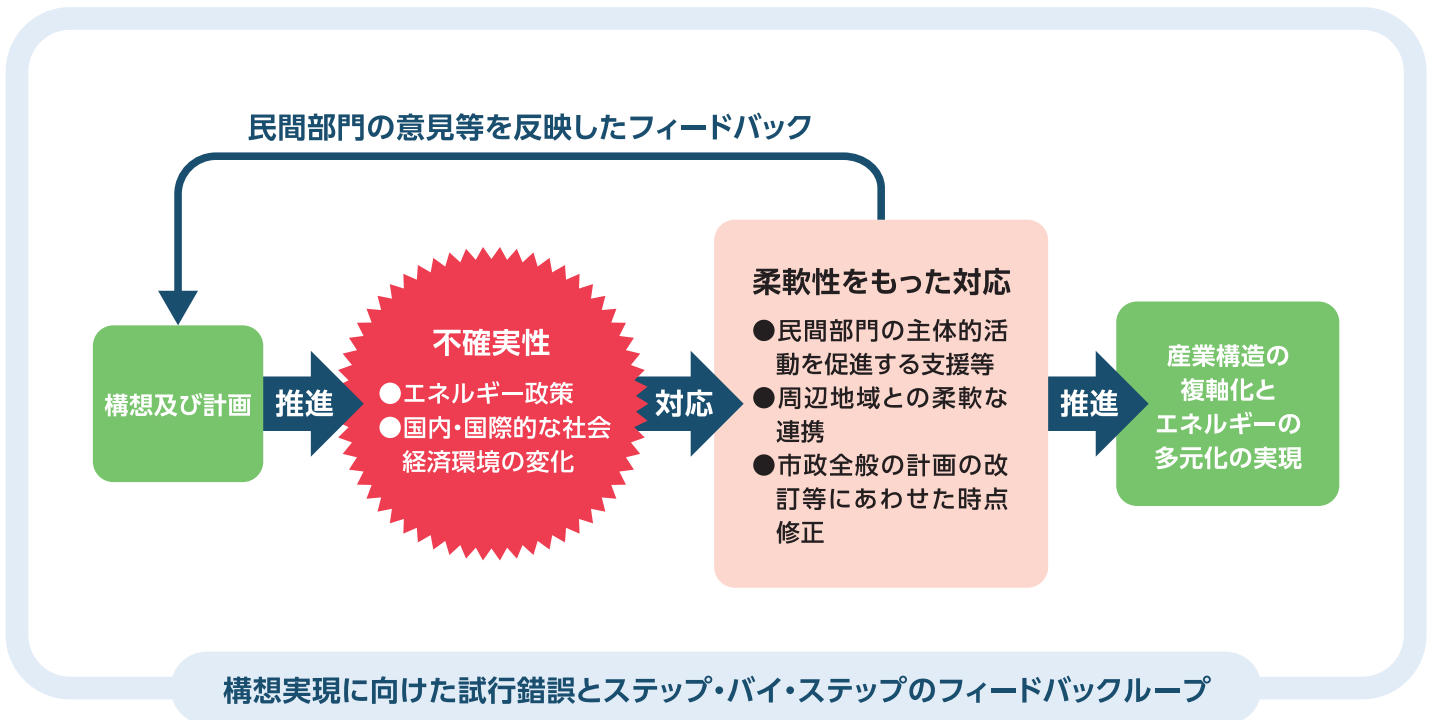
構想実現に向けては、未だ不明確な部分が多い今後のエネルギー政策の動向だけでなく、わが国全体または国際的な社会経済環境の変化による将来の不確実性が存在します。

そのため、構想の実現に向けては、可能性に着目した大胆さと、不確実性に着目したしなやかさの両面を見据え、時宜にかなった修正や周辺地域との連携について柔軟性をもって取り組みます。

2. 不確実性への対応

構想実現に向けては、主たる経済主体となる民間部門を主体とした推進に重きを置きます。そのため、民間部門の主体性を促す支援を通じ、不確実性の緩和に努めるとともに、構想に定めた事柄を普遍的なものとする事なく、市政全般の政策方針の改訂等にあわせ、各計画の見直しを検討していきます。

【構想実現に向けた推進過程】

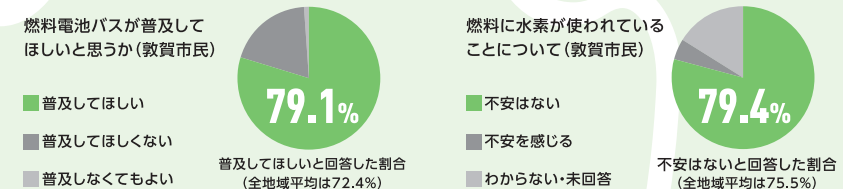


既に構想実現に向けた先導的な取組が始まっています

北陸で初となるFCバスの試行運行

2018年4月26日には、大型クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセス号の寄港時に、北陸初となるFCバスの試行運行を実施しました。28便(14往復)を運行し、約400の方がFCバスの搭乗体験をしました。体験者の概ね8割の市民がFCバスの普及や水素エネルギーについて理解を示し、新たなエネルギー源に対する市民の関心と受容性の高さが示されました。

【敦賀市内におけるFCバスの試行運行と体験者アンケート結果】



▲敦賀市内におけるFCバスの試行運行

敦賀からはじまる新しい水素エネルギー供給のかたち

2018年度から、全国でも先駆的なFCVへのフル充填が可能な再生可能エネルギー由来の水素ステーションの研究開発が始動しました。また、2018年8月には、東芝エネルギーシステムズ株式会社と「水素サプライチェーン構築に関する基本協定」を締結しました。今後、民間部門との役割分担と連携の中で、敦賀から新しい水素エネルギー供給のかたちを創出していきます。



▲再生可能エネルギー由来水素ステーション及びR&D・PRセンターのイメージ

敦賀から羽ばたく水素の翼

2019年度から、近畿経済産業局「関西スマートエネルギーイニシアティブ」と連携し、この敦賀の地で、高効率水素エンジン利用ドローン(HyDrone)の研究開発を展開します。2025年国際博覧会(大阪・関西万博)でのデモフライトを目指し、世界に向けて敦賀から水素の翼が羽ばたきます。



※HyDrone=水素(Hydrogen)・ハイブリッド(Hybrid)×ドローン(Drone)

▲HyDroneが飛び交う未来社会のイメージ(近畿経済産業局提供)